

○地域商業活性化に係る先進的な取組事例

〈新ひだか得する街のゼミナール実行委員会（新ひだか町）〉

■「まちゼミ」の概要

店主、スタッフが講師となり、プロならではの知識、情報などを無料で受講者に伝える少人数制のゼミである「まちゼミ」は愛知県岡崎市で平成15年（2003年）に始まり、現在全国で47都道府県約430地域にまで拡大。日高管内では唯一新ひだか町で開催されている。

新ひだか町商工会主催の「まちゼミ講習会」への参加がきっかけとなり、商店街の活性化の一助となっているまちゼミ開催の機運が高まり、6名の委員により平成31年（2019年）に「新ひだか得する街のゼミナール実行委員会」が発足。現在までに4回開催。委員の数や参加事業所は、地区も静内及び三石地区に拡大し発展を続けている。

■イベント実施のねらいと効果

「まちゼミ」の特徴である店主、スタッフが講師となり自店で講座を開催することで、幅広い層が各商店に来店するきっかけづくりを構築。店主、スタッフが参加者との交流を通じ、商店や商店街のファンを獲得し、商店街及び新ひだか町の活性化を図ることを目的としている。

講座開催では販売行為は禁止されているが、参加店は顧客から求められているサービス、商品、情報が何かを知り得る機会になっている。参加事業者からは経営改善に繋がれたという声もあり、通常の販売業務では得られない効果もあり好評。

参加者が「まちゼミ」をきっかけにファンとなり、その後も店に足を運ぶなど、集客に一定の効果もみられるなど、商店街の活性化に繋がっている。

■「キックオフ交流会」の開催について

令和4年（2022年）度は初の試みとして、「まちゼミ」の概要や講座内容などを紹介し、参加者からの質問等を受付する「キックオフ交流会」を開催した。

住民から「ゼミに参加してみたいけれど参加しにくい」、「店に入りづらい」などの声があったため、まちゼミ全体の特徴などを紹介し、取組内容や雰囲気などをより多くの人に知ってもらうことを目的に企画。

キックオフ交流会には約20名の参加があった。参加者からは「イベントに参加するのが楽しみだ。」などの声があり、実際講座に参加をした人も多く有意義な試みとなった。



■イベントの様子と実施効果について

「親子で楽しむミツロウラップ作り」

養蜂場が直営する店舗で親子を対象に、環境教育にも役立つミツロウラップ作りを開講。2回目の開催となり、2日間、各日満員となった。

ミツロウラップ作りの合間には蜂蜜の食べ比べや蜂蜜の話もし、参加者から好評だった。

また同店はオンラインで「知っているようで知らない蜂蜜の秘密をお話する」という講座も行ったが、口コミにより大阪、埼玉など遠方からの参加もあった。

参加者が後日、東京、大阪で同店が出店した催事に買いに来てくれるなど、「まちゼミ」をきっかけに蜂蜜ファンを増やすことができ、店のファン拡大にも効果があった。



「町長がご案内します。役場内ツアー」

町長がツアー形式で役場内を案内し、普段見ることができない役場の裏側などを公開。対象者は高校生から20代の参加者を募った。

役場が「まちゼミ」に事業者として参加という形での連携を行っている例は珍しく、今年度は6人の高校生が参加し、各課を回り仕事についての説明や質問を受けるなどした。過去に参加した高校生が、実際に役場に就職した例もあり、雇用の促進にも繋がっている。



■補助金の活用について

道の「地域事業者連携型販売促進等支援事業費補助事業」を活用し、パンフレットやポスターを作成。

講座の内容を掲載したパンフレットは町広報に折込し、全町民に配布。公共機関や店舗にポスターを掲示し、広く周知ができた。

参加店舗から1講座につき徴収している参加費が負担となっていたが、ポスター等の作成費を補助金で賄うことができたため、参加費を例年より低く抑えることができ、参加事業者の負担の低減になった。本年度は美容、健康、趣味、食など多彩な講座、28事業者34講座を開催した。



■今後について

参加者からの口コミ、ポスターやチラシなどの活用で認知度も上がっている。

毎年、参加者、事業者からのアンケート結果を報告会で共有し、講座内容など改善。

新講座も開講するなど、変化、発展を続けながら、今後も継続していくことが期待される。

取材先 ■新ひだか得する街のゼミナール実行委員会

日高郡新ひだか町静内本町1丁目1-12 新ひだか町商工会内

TEL：0146-42-0041